

平成26年度資源評価票(ダイジェスト版)

[Top](#) > [資源評価](#) > [平成26年度資源評価](#) > [ダイジェスト版](#)

標準和名 マダラ

学名 *Gadus macrocephalus*

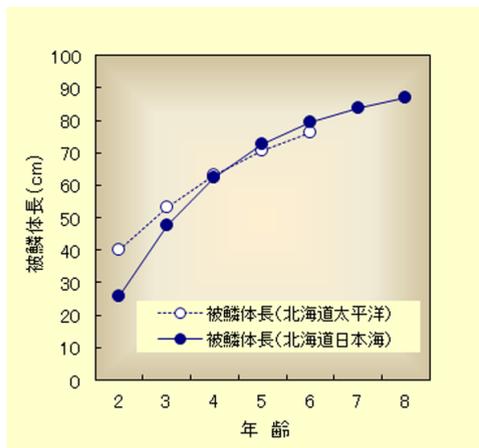
系群名 北海道

担当水研 北海道区水産研究所



生物学的特性

寿命: 不明
 成熟開始年齢: 雄3歳、雌4歳(北海道太平洋)
 産卵期・産卵場: 冬季(12~3月)、北海道周辺の分布域全体
 索餌期・索餌場: 不明
 食性: 幼稚魚期は主にカイアシ類、底生生活に入ってからには主に魚類、甲殻類、頭足類、貝類
 捕食者: 海獣類

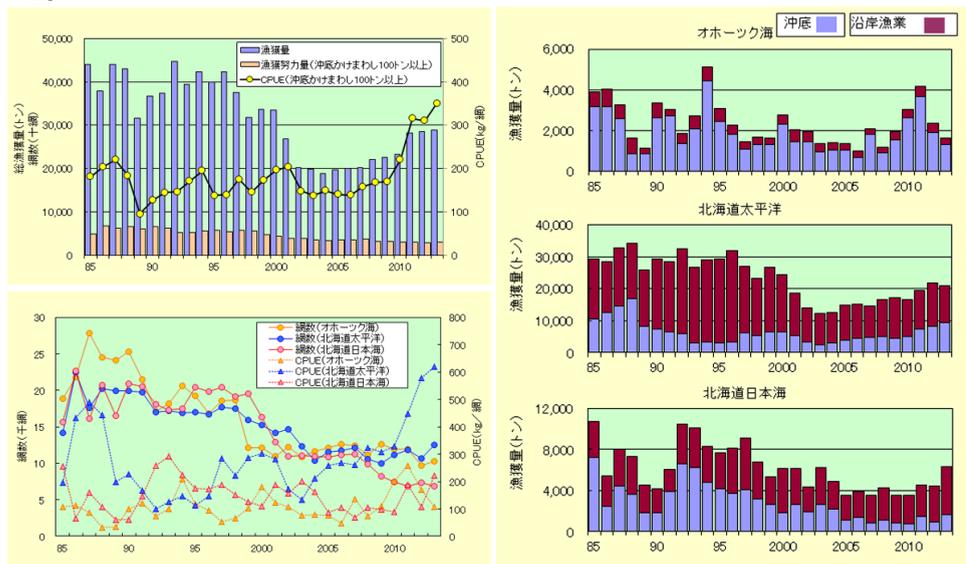


漁業の特徴

北海道周辺海域のマダラは、沖合底びき漁業(沖底)に加え、刺網、はえ縄などの沿岸漁業によって漁獲されている。漁獲はほぼ周年あるが、冬季~春季に多い。

漁獲の動向

漁獲量は、1990年代後半以降減少傾向にあったが、2005年以降増加傾向にある。2013年の漁獲量は、前年よりわずかに増加して28,949トン(オホーツク海:1,653トン、北海道太平洋:20,988トン、北海道日本海:6,307トン)であった。

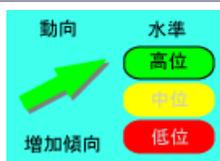


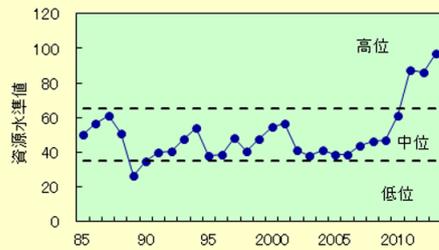
資源評価法

100トン以上の沖底かけまわし船のCPUE(沖底CPUE)に基づいて資源評価を行った。沿岸漁業の漁獲努力量に関しては情報が得られておらず、沿岸漁業の漁獲量から資源状態を判断することは困難である。

資源状態

資源水準は、過去29年間(1985~2013年)における沖底CPUEの平均値を50とし、35未満を低位、35以上65未満を中位、65以上を高位とした。また、資源動向は、最近5年間(2009~2013年)における沖底CPUEの変化に基づいて判断した。その結果、マダラ北海道全体としての資源水準は97で高位、動向は増加と判断した。また、海域別の資源水準・動向は、オホーツク海は中位(50)・横ばい、北海道太平洋は高位(111)・増加、北海道日本海は高位(75)・増加と判断した。





管理方針

資源量指標値として沖底CPUEを用いた。評価群全体の資源水準は高位、動向は増加と判断した。資源の動向に合わせた漁獲を行うことを当評価群の管理方針とする。

	2015年ABC	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	31千トン	$1.0 \cdot \text{Cave}3\text{-yr} \cdot 1.09$	—	—
ABCtarget	25千トン	$0.8 \cdot 1.0 \cdot \text{Cave}3\text{-yr} \cdot 1.09$	—	—

- ABC算定規則2-1)によって海域ごと(オホーツク海・北海道太平洋・北海道日本海)にABCを算定し、合計値をマダラ北海道のABCとした
- $\text{ABClimit} = \delta_1 \cdot \text{Ct} \cdot \gamma_1$, $\text{ABCtarget} = \text{ABClimit} \cdot \alpha$
- γ_1 は $\gamma_1 = 1 + k(b/I)$ で計算をし、 k は係数(標準値の1.0)、 b とは資源量指標値の傾きと平均値(直近3年間)である
- 安全率 α は標準値の0.8とした

資源評価のまとめ

- 沖底CPUEに基づいて資源状態を判断
- 評価群全体の資源水準および動向は、高位・増加
- 海域別にみると、北海道太平洋と北海道日本海の資源が高位・増加、オホーツク海の資源が中位・横ばい

管理方針のまとめ

- 資源の動向に合わせた漁獲を行うことを当評価群の管理方針とした

執筆者: 千村昌之・田中寛繁・船本鉄一郎

資源評価は毎年更新されます。